

3 章 個別整備計画

1 回遊路（集落内道路）

整備対象	勝連城跡から歴史を感じるルート、集落内の歴史・文化を感じるルート
------	----------------------------------

現状と課題

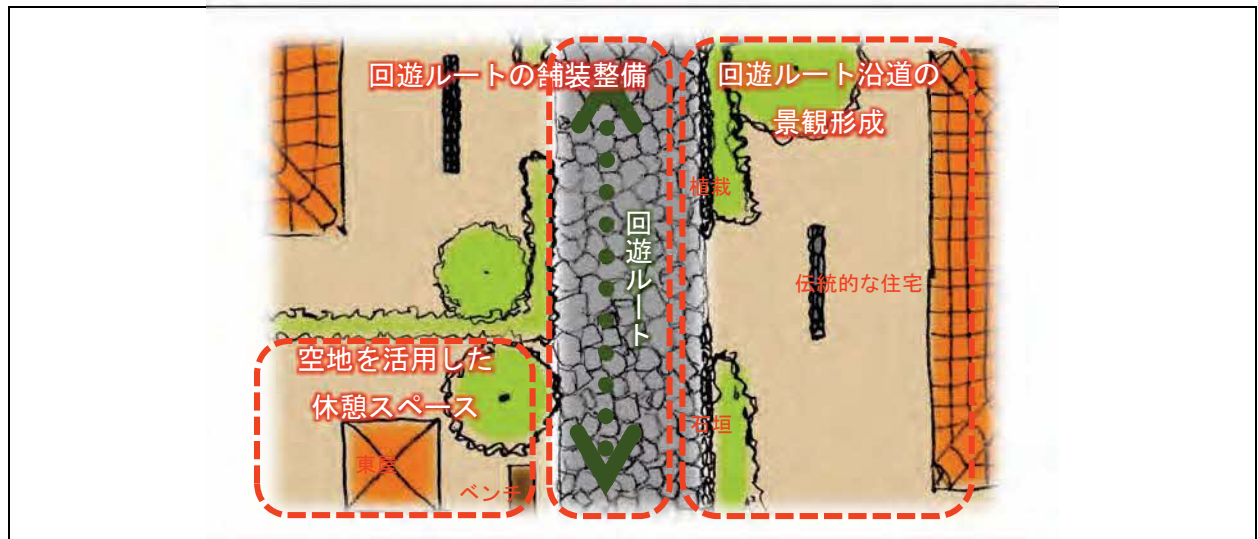
現状	●南風原集落は、平坦な土地に碁盤の目状に通っており、移転した当時の集落の構造が残っています。 ●浜屋集落は、勝連城跡から最も近い集落であり、近くに南風原漁港があります。 ●集落内の道路は、住民の生活道路のため通過交通が少ないが、自動車同士のすれ違いが困難なほど幅員が狭く、見通しが悪くなっています。 ●集落内の沿道は、コンクリートブロック塀や生垣が多く、同じような風景が続いています。
課題	◇集落内は同じような風景が続くことから、来訪者が迷わずに行き来できるよう、回遊ルートが一目で分かる工夫をする必要があります。 ◇集落内の沿道はコンクリートブロック塀が多く、まだまだ沖縄らしい景観が少ない状況です。集落内は景観地区指定に向けた取り組みを進めており、回遊ルート沿いは優先的に沖縄らしい景観形成の整備を進める必要があります。

整備内容

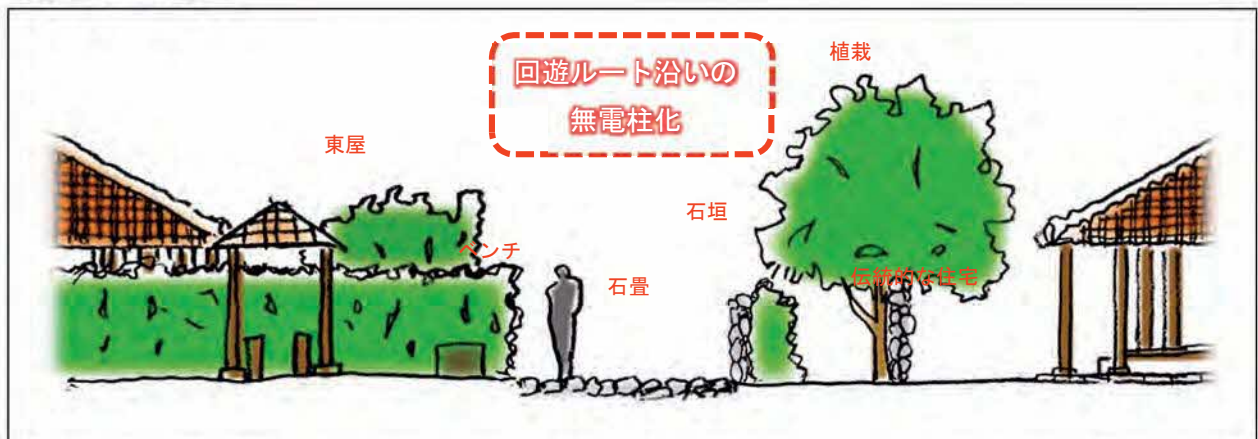
基本方向	整備項目	整備内容
移動したくなる環境の整備	①回遊ルートの舗装整備	回遊ルートに指定する道路は、回遊ルートであることを明確に示すために、石畳やカラー舗装を整備します。
	②ベンチなどのストリートファニチャーの設置	回遊ルート沿いの空地には、歩行者が休憩できるようにベンチや東屋の設置を促進します。また、夜の街並みを楽しめるように、ライトアップによる演出を検討します。 また、必要に応じて、歌碑の設置を検討します。
	③無電柱化の検討	景観形成の方法として、回遊ルート沿いの無電柱化に向けて、調査や整備手法の調査・検討を進めます。
地域主体による管理・運営	④建物や植栽などによる景観形成の整備	回遊ルート沿いは、優先的に勝連城跡周辺の集落にふさわしい景観形成を図ります。

整備イメージ

<平面イメージ図>



<立面イメージ図>



<イメージ>



2 回遊路（県道 16 号線）

整備対象	県道 16 号線、(仮) シンボルロード
------	----------------------

現状と課題

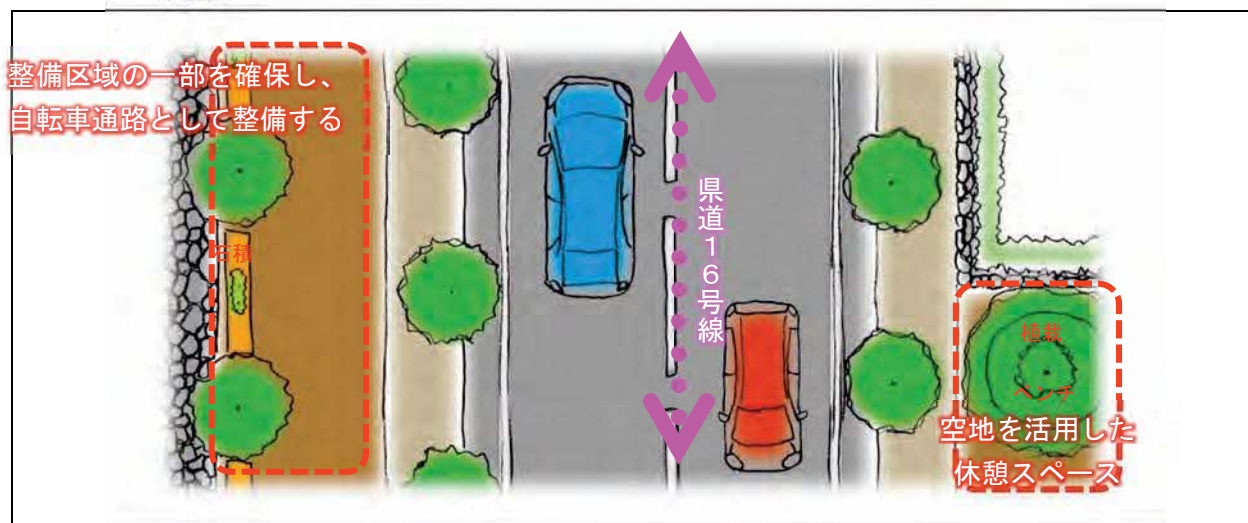
現状	●県道 16 号線は、南風原地区内を南北に通る、勝連城跡から南風原集落をつなぐ主要な道路として位置付けられています。 ●県道 16 号線は、歩道が整備されているが、勝連城跡から移動する際には高低差があり、歩道に雑草が生い茂っているため、歩きにくい環境となっています。 ●また、県道 16 号線沿いに休憩できる空間がほとんどなく、勝連城跡休憩所と勝連城跡を分断しています。
課題	◇県道 16 号線は、地区のメイン道路として、歩行者が歩きやすく、滞留できる空間を確保することが必要です。 ◇また、県道 16 号線は、勝連城跡周辺にふさわしい景観形成のための整備が必要です。

整備内容

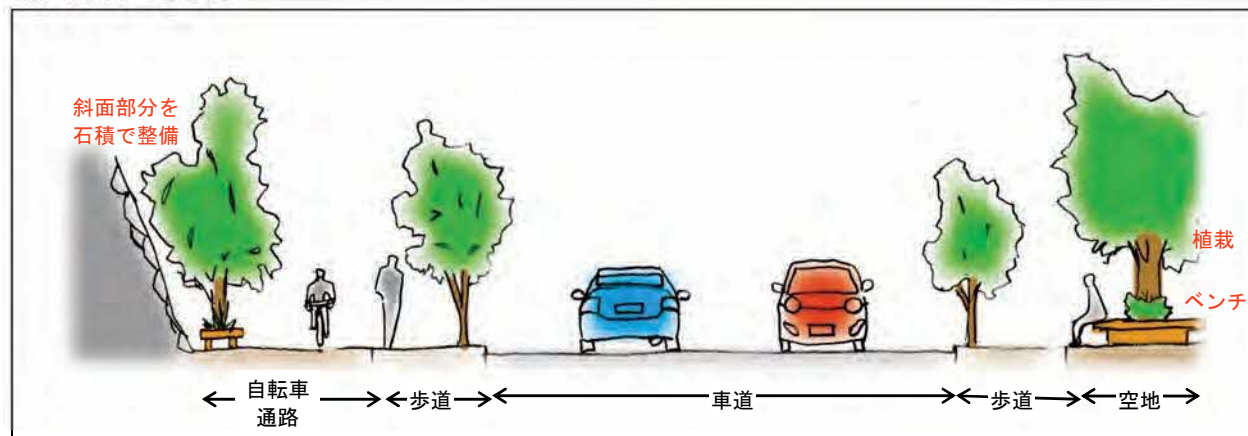
基本方向	整備項目	整備内容
移動したくなる環境の整備	①空地を活用した歩行空間等の整備	(仮) シンボルロードの整備と併せて、整備区域の一部を空地（歩道）として空間を確保し、勝連城跡のシンボルロードに相應しい沿道整備を行います。
	②ベンチなどのストリートファニチャーの設置	県道 16 号線及びシンボルロード沿いには、ベンチを設置するほか、ライトアップによる演出を検討します。また、必要に応じて、歌碑の設置を検討します。
	③景観整備の促進	県道 16 号線及び(仮) シンボルロードでは、沖縄らしい植栽や石積み等の素材を使う等、勝連城跡周辺のメイン道路に相應しい沿道整備を促進します。
	④無電柱化の促進	勝連城跡-周辺地区のメイン道路にふさわしい歴史的な景観の創出を図るため、無電柱化を促進します。

整備イメージ

<平面イメージ図>



<立面イメージ図>



<イメージ>



3 重点資源①：カー（集落内）

整備対象	アガリガー、マンナカガー、イリーガー
------	--------------------

現状と課題

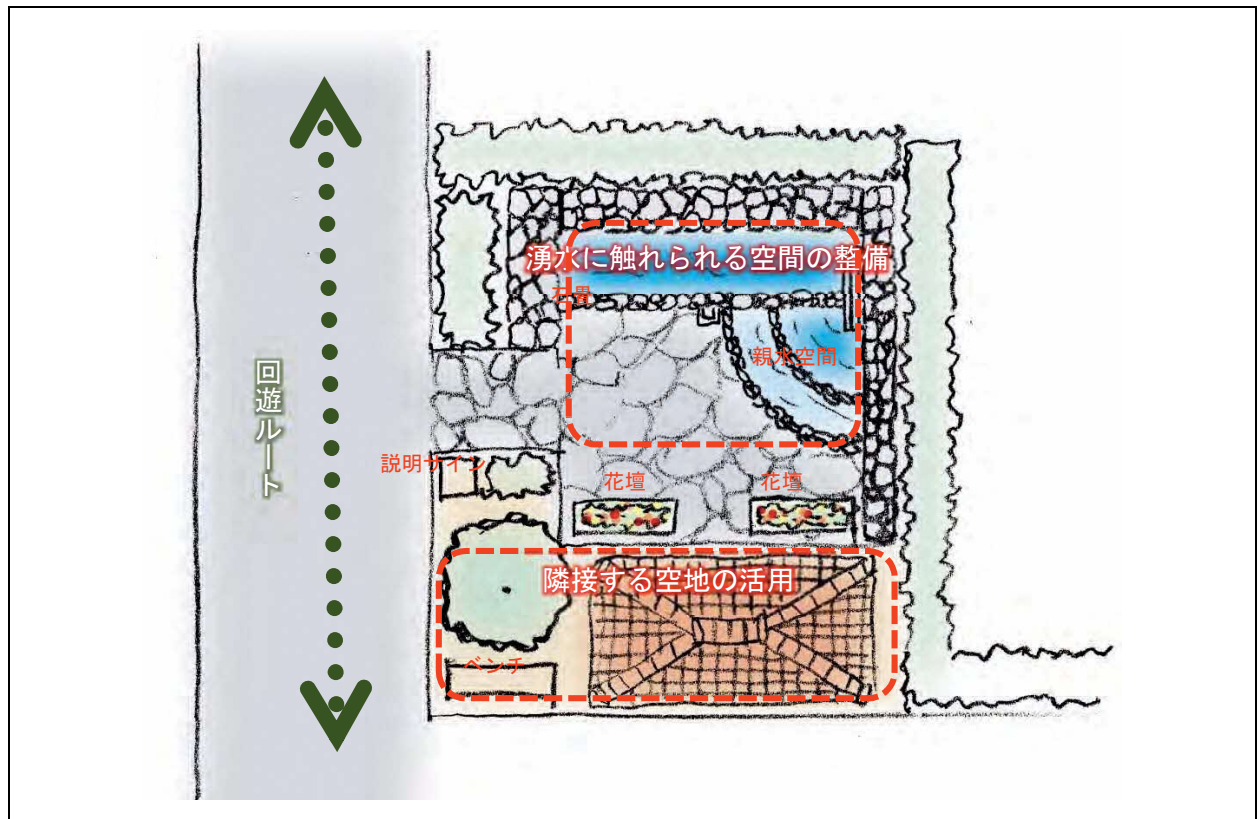
現状	●勝連城跡周辺には多くの「カー」と呼ばれる自然の湧き水を利用した井戸が多く残っています。 ●南風原集落内の3つの共同井戸（アガリガー、マンナカガー、イリーガー）は、個人用の井戸を掘るためには王府の許可が必要だった時代に、飲料水としてつくられたものであり、カーの形状がしっかりと残っています。 ●これらの3つの共同井戸は、戦前は水が豊富に湧き出ており、集落の生活を支えていましたが、現在は、飲料水として利用せず、旧暦の年頭拝みなどで祈願を行っています。 ●また、3つの共同井戸は、現在は安全面から井戸は金網で覆われ、名称や説明のサインが設置されておらず、観光資源としてまったく利用されていない状態です。
課題	◇南風原集落内の共同井戸は、現在は飲料水として利用されていませんが、地域の歴史的背景や当時の井戸の形状、貴重な湧水を活かすことが必要です。 ◇これらの共同井戸は、当時は地域住民の交流の場でもあったことを考慮して、地域住民と観光客の交流ができる空間として整備する必要があります。

整備内容

基本方向	整備項目	整備内容
歴史・文化のストーリー化	①湧水に触れられる親水空間の整備	転落防止としての網を水の中に設置することにより、安全面に配慮するとともに、雰囲気を感じられ、湧水に触れられる整備を行います。また、飲料水として利用できるかの調査・点検を行います。
地域住民との交流の創出	②空地を活用した交流空間の整備	前面の洗い場の空間や隣接する空地を活用し、地域住民や来訪者が滞留・交流できる空間を設けます。また、県の整備事業との整合性を図りながら、整備の検討を行います。
移動したくなる環境の整備	③周辺の景観と合わせた整備	カー周辺の景観に配慮して、石積みや生垣等を用いて、周辺の景観と合わせた景観形成整備を行います。また、地域の景観に合う壺などのモニュメントの設置も検討します。

(3)整備イメージ

<平面イメージ図>



<イメージ>



4 重点資源①：村獅子

整備対象	現存する村獅子（北側、西側）、現存しない村獅子（南側、東側）
------	--------------------------------

現状と課題

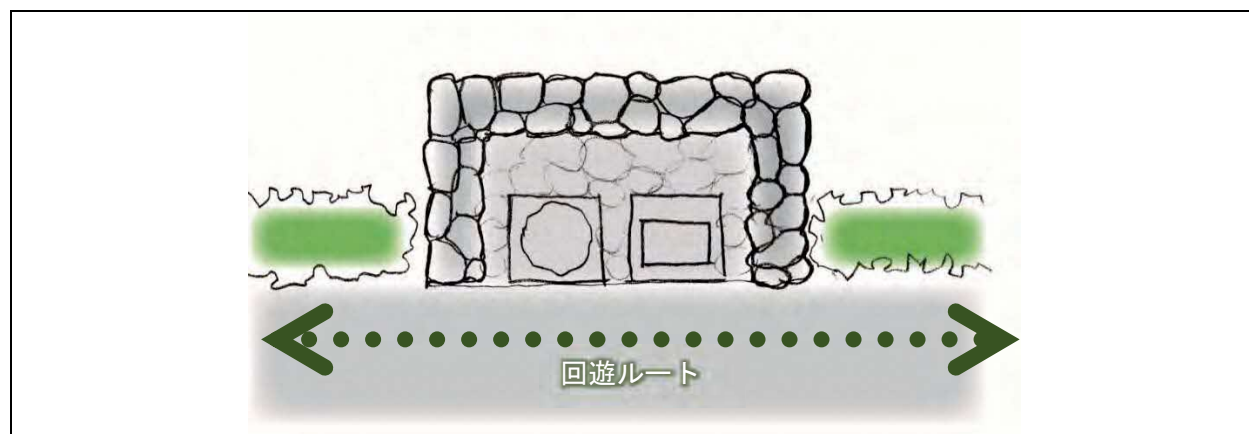
現状	●南風原集落の村獅子は、村のフーチゲージ（邪気払い、じゃきはらい）として、勝連城南側の元島原（むとうじまばる）より移動したとき（1726年）に、村の境界として東西南北の4角（すみ）に置かれたと伝えられています。 ●現在は、北側と西側の2つの村獅子が現存しており、南側と東側は現存していません。 ●現存する村獅子は北側の村獅子には説明サインが設置されているが、西側の村獅子には説明サインはなく、トタンに囲われている状態であり、村獅子がただの石塊と見間違われることがあります。
課題	◇歴史・文化的な地域資源である村獅子は、2つの村獅子の消失と説明サインが設置されていないことにより、勝連城とのストーリーやつながりがわかりにくくなっています。そのため、勝連城や村のなりたちと村獅子のつながりやストーリーをわかりやすく表現するための整備を行う必要があります。 ◇南風原集落の村獅子は、すべてが現存するわけではなく、また現存していても存在がわかりにくいため、現状では観光資源としての活用が難しい状態です。現存する獅子の存在をわかりやすくし、観光新資源として整備する必要があります。

整備内容

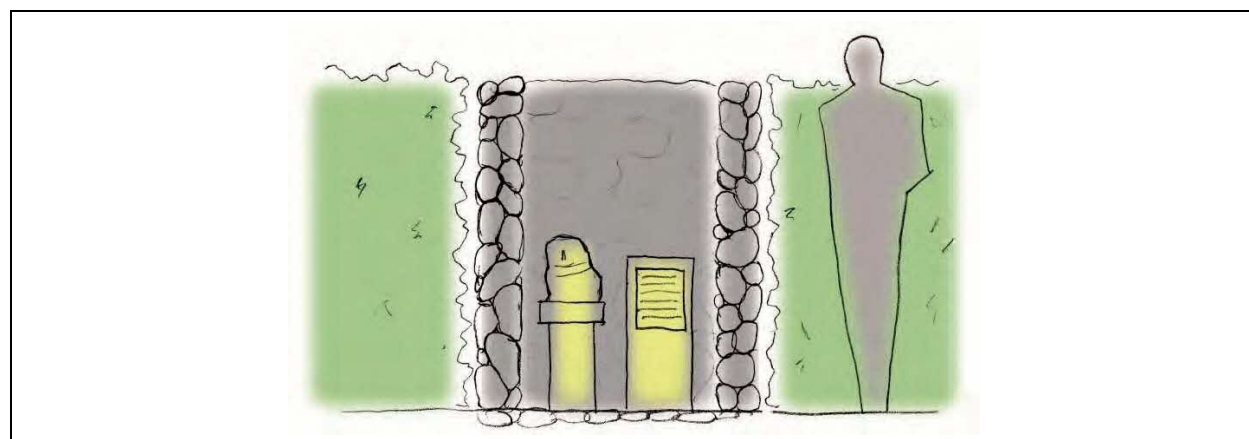
基本方向	整備項目	整備内容
歴史・文化のストーリー化	①村獅子の復元または設置跡の明示	現存しない2つの村獅子（南側と東側）を復元する、もしくは設置跡を明示するとともに、説明サインを設置します。
	②資源として認識してもらうための整備	現存する村獅子は、地面に設置されており、石の塊のように見え、村獅子を資源として見落としてしまうことを防ぐため、台座やサインを整備します。
移動したくなる環境の整備	③景観に配慮した整備	資源である村獅子の周辺は、周辺の景観に配慮し、石積みや植栽などを整備します。

(3)整備イメージ

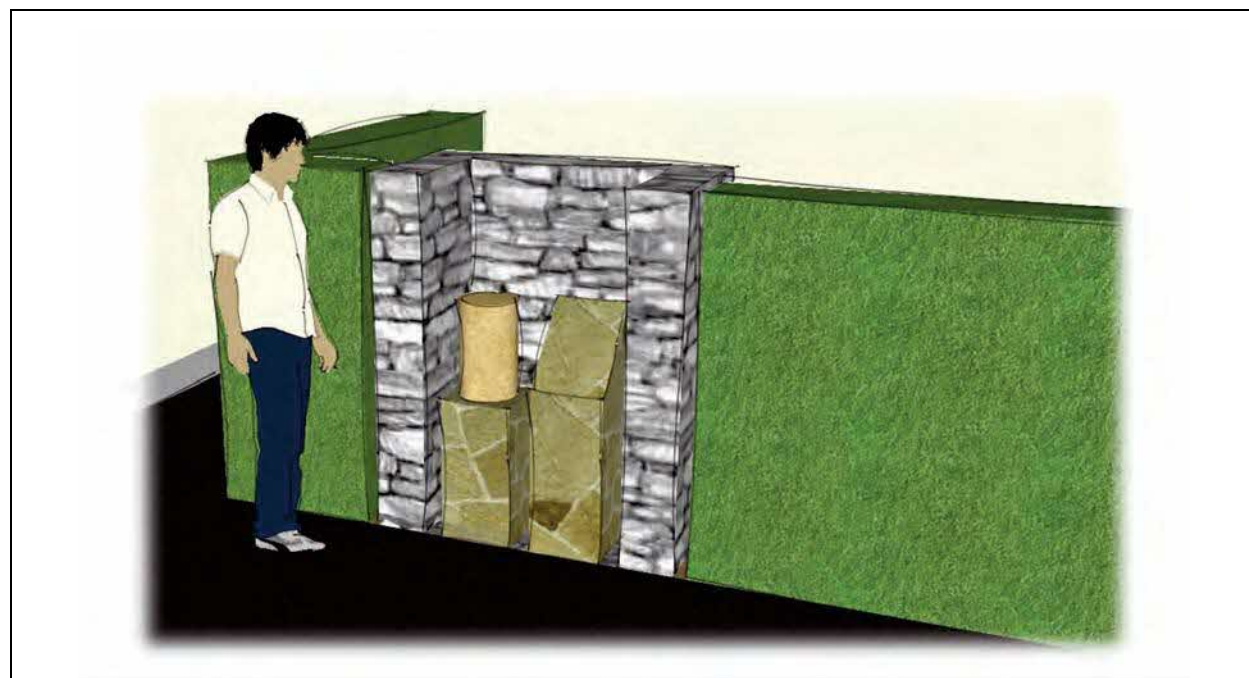
<平面イメージ図>



<立面イメージ図>



<イメージ>



5 重点資源③：御嶽・拝所

整備対象	クトジ御嶽、浜崎の寺、浜川カー、
------	------------------

現状と課題

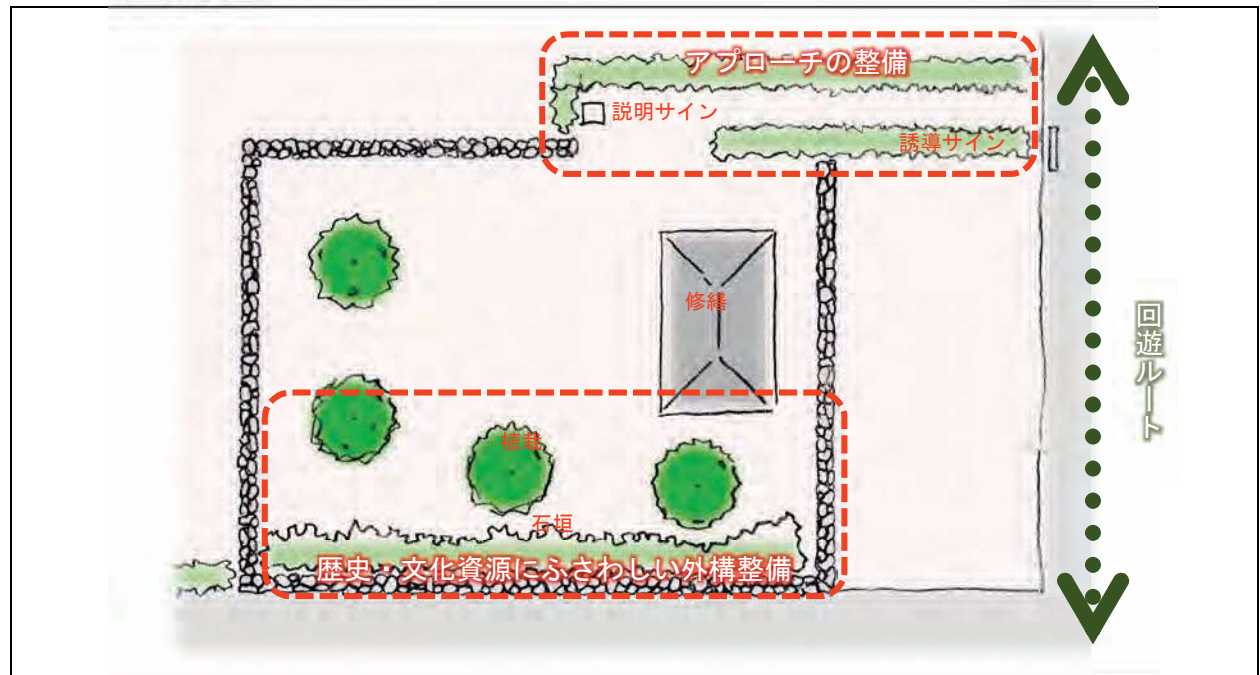
現状	●勝連城跡や集落を中心に、多くの御嶽・拝所が点在しており、御嶽・拝所は、神聖な場所として、地域住民の信仰の中心となっており、地域の歴史・文化を知る上では欠かせないものです。 ●まち歩きプログラム「うるまーい」の勝連城跡周辺コースでも、クトジ御嶽や浜崎の寺、浜川カーなどの御嶽・拝所を巡れるようになっており、これらの御嶽・拝所には説明サインや誘導サインが設置され、観光資源として整備されています。 ●しかし、これらの御嶽・拝所に向かうためには、回遊コースから狭いアプローチを通らなければならない、見逃してしまう可能性があります。 ●また、これらの御嶽・拝所は、一部破損していたり、周辺に雑草が生い茂っていたり、ごみが落ちていたり、維持管理が行き届いていないところがあります。
課題	◇狭いアプローチを見逃さないために、アプローチ入口から御嶽・拝所とわかるような整備をする必要があります。 ◇歴史的背景や周辺の景観に合わせて周辺を整備する必要があります。 ◇既に観光資源で活用しているため、早急に破損している部分を修繕する必要があります。

整備内容

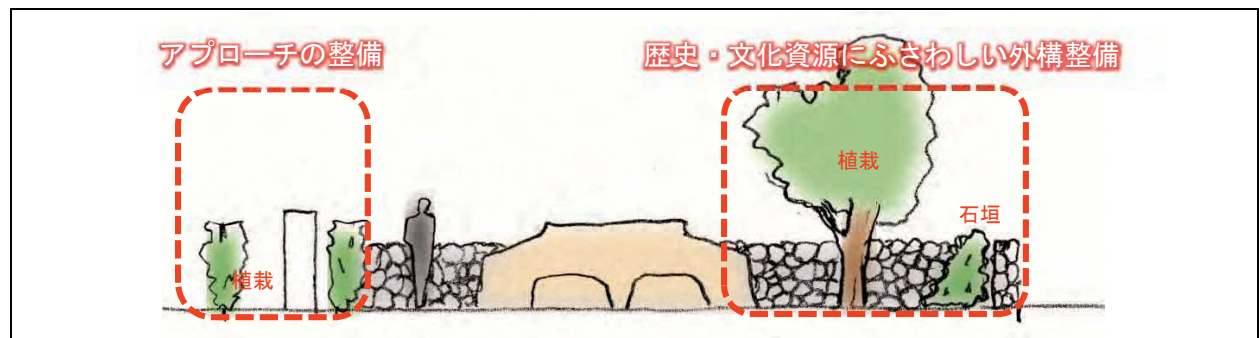
基本方向	整備項目	整備内容
歴史・文化のストーリー化	①アプローチの整備	回遊ルートからスムーズに御嶽・拝所に向えるように、アプローチの入口から歴史・文化資源とわかるようアプローチを整備します。
	②歴史・文化資源にふさわしい景観整備	地域の歴史・文化を象徴する地域資源であるため、歴史的背景や地域の景観にふさわしい外構や植栽を整備します。
	③破損部分の修繕	地域の歴史・文化を象徴する地域資源が破損した場合は、早急に破損部分を修繕します。また早急に、修繕できる仕組みも検討します。

(3)整備イメージ

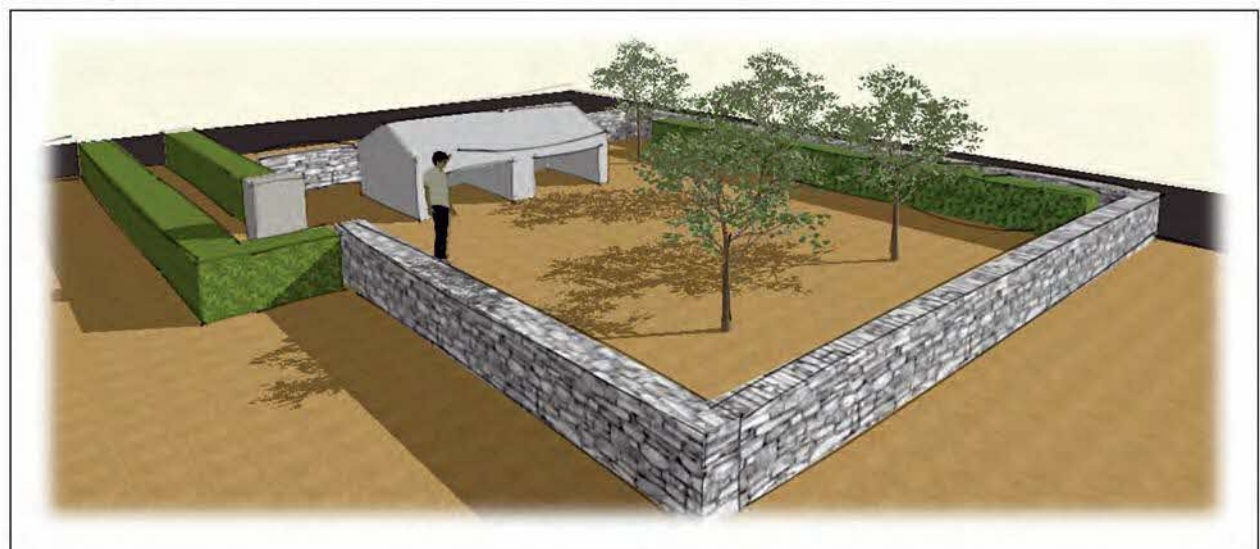
<平面イメージ図>



<立面イメージ図>



<イメージ>



6 観光サイン

整備対象	回遊拠点施設の全体案内サイン、地域資源の誘導サイン・説明サイン
------	---------------------------------

現状と課題

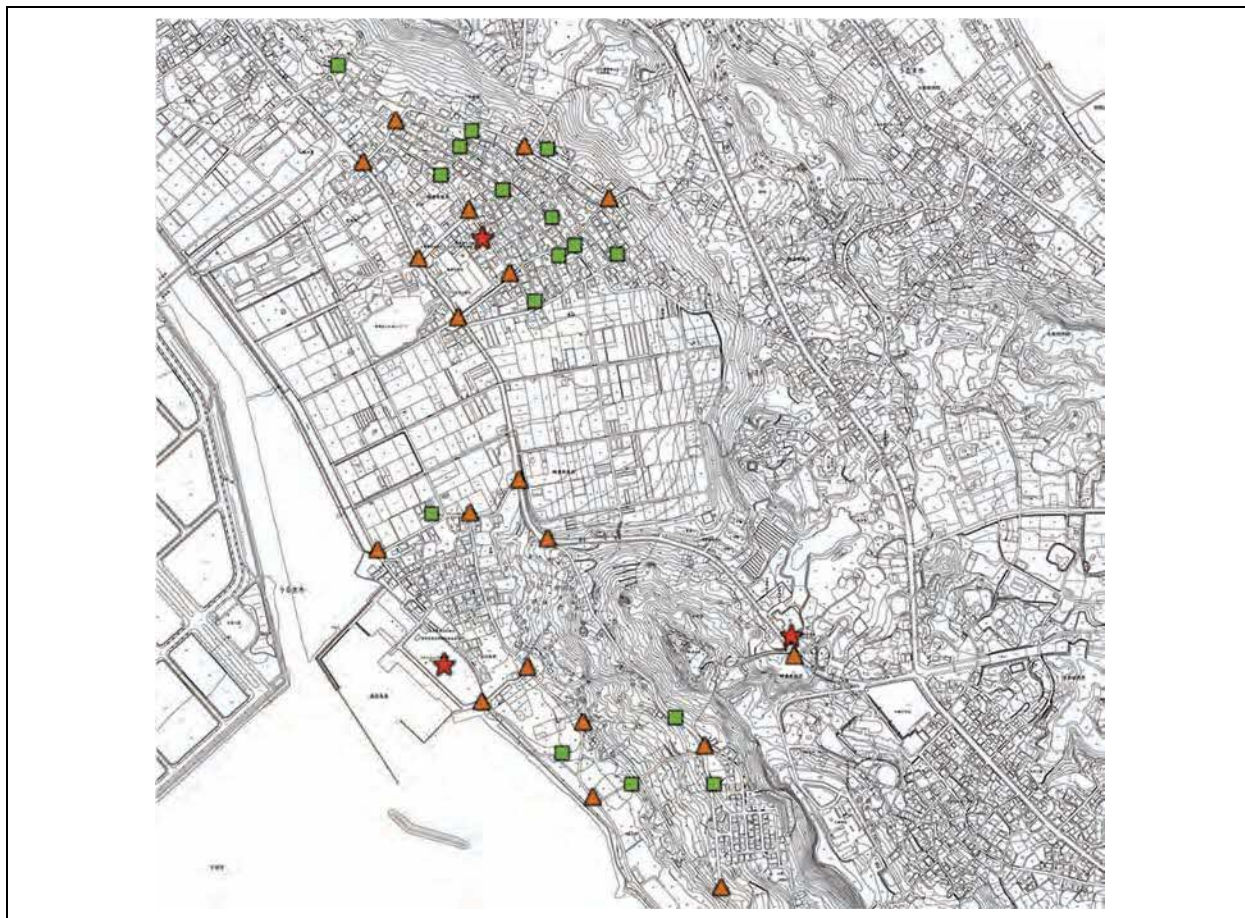
現状	●うるま市全域の案内の「全体案内サイン」は、勝連城跡休憩所に設置されているが、勝連南風原地区の「全体案内サイン」は設置されていません。 ●集落や地域資源への「誘導サイン」は、ほとんど設置されていません。 ●地域資源には、「説明サイン」が設置されていない箇所が多くあります。 ●また、地区内の「説明サイン」の中には、情報が不足していたり、多言語化への未対応だったり、観光客に正しい歴史・文化の情報を伝えることができていません。 ●整備主体や設置時期により観光サインのデザインが異なります。
課題	◇歩行者用の「誘導サイン」や「全体案内サイン」は設置されていないため、来訪者にとっては資源の場所や道のりが分からないため、来訪者が集まる回遊観光の拠点には「全体案内サイン」、地域資源等の付近には歩行者用の「誘導サイン」が必要です。 ◇資源の「説明サイン」が設置されていない、設置されていても情報等も不足しているため、歴史・文化を伝えるために必要な情報を記載した「説明サイン」が必要です。 ◇地域内で観光サインのデザインに統一感が欠けているため、地区全体のサインデザインの方針を定める必要があります。

整備内容

基本方向	整備項目	整備内容
移動したくなる環境の整備	①拠点施設への全体案内サインの設置	来訪者が集まる回遊観光の拠点施設に「全体案内サイン」を設置します。
	②歩行者用の誘導サインの設置	歩行者が地域資源等までのスムーズに到着できるように、資源付近の道路分岐点等に、歩行者用の「誘導サイン」を設置します。
歴史・文化のストーリー化	③必要な情報を記載した説明サインの設置	地域資源の「名称」と「説明文（歴史・文化のストーリー）」等を記載した「説明サイン」を設置します。また、多言語化の対応は、QRコード等の活用を検討します。
	④観光サインのデザイン方針の作成	統一感のある観光サインとなるように、地区全体の観光サインのデザイン方針を作成する。デザイン方針の検討のために、既存のサインのデザインやサインを設置している関連部署と調整を行います。

(3)整備イメージ

<設置場所イメージ図>



<立面イメージ図>



デザイン方針(案)

●景観への配慮

- ・景観を阻害しない色・形状であること

●ユニバーサルデザイン

- ・誰もが分かりやすい標記であること

●デザインの統一性

- ・連続した案内となるよう、デザインの統一性を確保すること

7 休憩施設

整備対象	集落内の空き家、集落内の敷地（移築の場合）
------	-----------------------

現状と課題

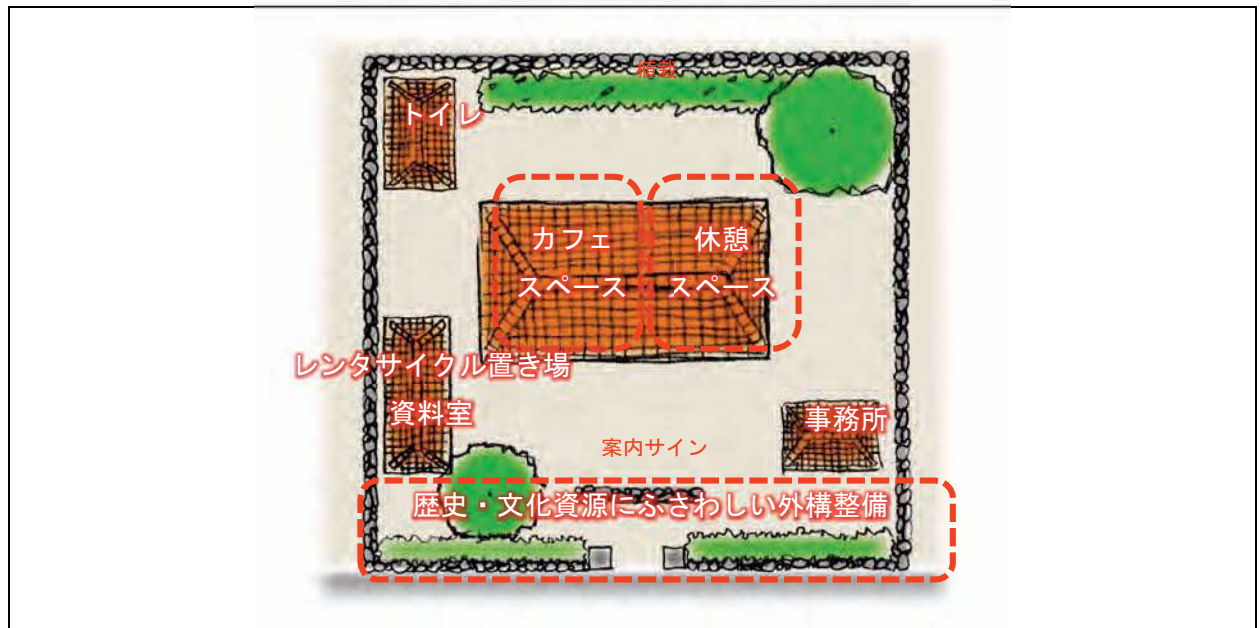
現状	●勝連城跡周辺地区の休憩施設は、勝連城跡休憩所のみであり、他に地区内で休憩できる施設はありません。 ●勝連城跡休憩所では、休憩スペースの他に、観光案内窓口やお土産品の販売、まち歩きプログラム「うるまーい」の受付窓口などを行っています。 ●観光客意向調査によると、観光客が回遊するにあたって望んでいる機能として、ベンチや東屋などの休憩スペースという意見が多くありました。
課題	◇勝連城跡周辺地区の回遊を促すためには、地区の要所に回遊の拠点となる休憩施設があることが望ましいです。 ◇回遊の拠点となる休憩施設は、勝連城跡周辺地区の景観にふさわしい建物や植栽整備が必要です。 ◇休憩施設の機能としては、休憩スペース機能の他に、飲食や地域の歴史・文化を伝える情報など情報を発信する機能が必要であり、また、そのサービスが高いレベルで継続的に提供されることが必要です。 ◇集落内には空き家が点在しており、空き家の活用可能性を検討することも必要です。

整備内容

基本方向	整備項目	整備内容
移動したくなる環境の整備	①回遊観光の拠点施設としての整備	回遊観光の拠点となる休憩施設を整備します。この施設は、観光客が休憩する空間のみでなく、地域住民と交流するための機能も有するものとします。拠点施設の整備には、地域内の空き家を活用することも検討します。
	②拠点施設にふさわしい景観整備	勝連城跡周辺の模範となるような休憩施設にふさわしい景観形成を整備します。
歴史・文化のストーリー化	③回遊を促す付加価値の設定	沖縄県の伝統的な住宅には、母屋以外に離れや倉庫などがあり、それらの建物も活かした休憩施設を検討します。また、観光客のニーズ調査し、施設に追加する付加価値を検討します。

(3)整備イメージ

<平面イメージ図>



<立面イメージ図>



<イメージ>



8 駐車場

整備対象	既存の駐車場（勝連城跡休憩所、南風原ふれあいパーク、南風原漁港の駐車場、民間の駐車場）、回遊ルートや地域資源付近の空地
------	---

現状と課題

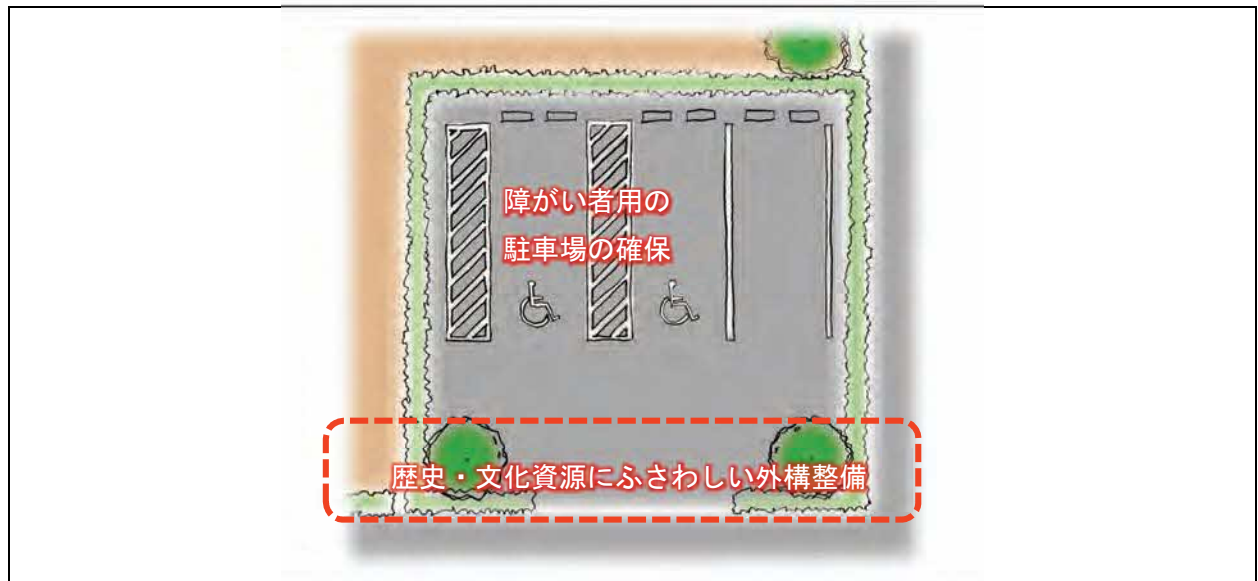
現状	●勝連城跡への訪問者のほとんどが自動車（レンタカー含む）で訪れており、勝連城跡休憩所の駐車場に駐車して、勝連城跡の見学やうるまーい等のまち歩きに参加しています。 ●しかし、勝連城跡周辺地区には、高低差や階段などの段差が多いため、1つの拠点から地域内を回遊することは困難です。 ●南風原地区内における来訪者用の駐車場は、勝連城跡休憩所（大型車…6台、普通車…39台、身障者…2台）と南風原ふれあいパーク（計79台）があります。
課題	◇勝連城跡周辺の地域の歴史・文化や自然、景観などを気軽に楽しんでもらうために、地域内の要所（回遊ルートの付近）に、回遊の拠点となる駐車場が必要です。 ◇また、体力がない高齢者や子ども、障がい者の方にも地域の歴史・文化や自然、景観等を楽しんでもらうために、地域資源の近くに駐車場を設置することが必要です。 ◇回遊ルート沿いに駐車場を整備することを考慮して、緑化などの周辺への景観への配慮や、レンタサイクルポートや休憩施設の併設など回遊を促進する機能を付加することを検討します。

整備内容

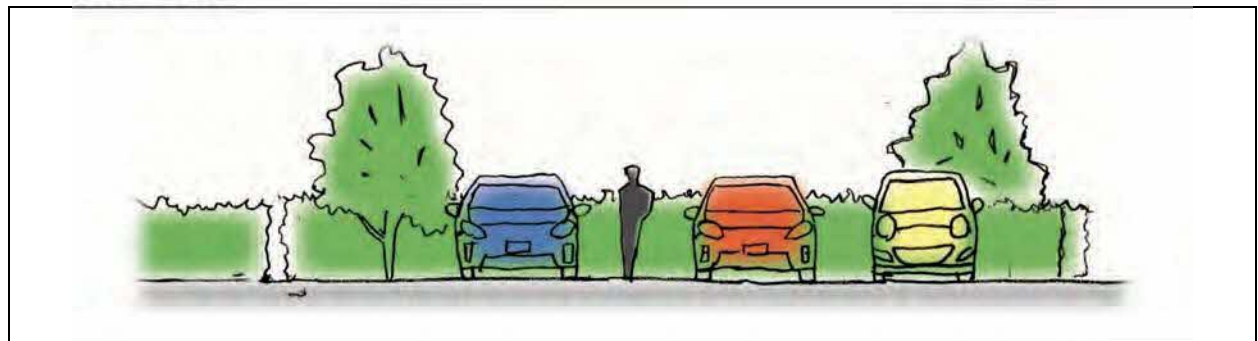
基本方向	整備項目	整備内容
移動したくなる環境の整備	①回遊の拠点となる駐車場の確保	地域の回遊ルートの要所に、拠点となる駐車場を確保します。回遊の拠点となる駐車場の場所は、勝連城跡休憩所、勝連城跡南側、南風原集落周辺、浜屋集落周辺などを想定し、既存の駐車場や民間の駐車場の活用も検討します。
	②空地の利用の検討	高齢者や障がい者でも気軽に地区内を回遊できるよう、回遊ルートや地域資源の付近に回遊ルートや地域資源の付近の空地を活用し、障がい者にも対応した小規模な駐車場を確保します。
	③景観に配慮した駐車場の整備	緑被や植栽に努め、周辺の景観や環境面に配慮した整備とします。
	④付加価値をつけた駐車場の整備	レンタサイクルポートや休憩施設の併設など回遊を促進するための機能を付加します。

整備イメージ

<平面イメージ図>



<立面イメージ図>



<イメージ>



